

防災講演会

「暴風雪時の行動―危機回避を考える―」

主 場 日 平成26年12月9日(火) 13時30分
 師 催 所 時 斜里町公民館「ゆめホール知床」
 網走地方道路防災連絡協議会
 北見工業大学社会環境工学科
 教授 高橋 清氏
 日本赤十字北海道看護大学
 准教授 根本 昌宏氏



網走地方道路防災連絡協議会の会長を務める、当部の太田次長から「防災への関心は年々高まっている。オホーツクは災害の少ない地域と言われているが、豪雪や暴風雪は多発しており、対策を考えるきっかけになればと考えます。」と開催の目的を説明しました。

網走開発建設部、オホーツク総合振興局、管内市町村等の関係機関で構成する「網走地方道路防災連絡協議会」は、暴風雪災害時の被害防止や軽減を図るため、日頃から備えが必要な対策や心構えなどの啓発を目的とする「防災講演会」を開催しました。



参加者との意見交換の様子



根本 昌宏氏



高橋 清氏



会場の入り口で行ったインフラの老朽化対策に関するパネル展示

暴風雪で車内に閉じ込められた際の対策を説明。一酸化炭素中毒を防ぐためにエンジンを切ることを想定し、毛布や寝袋などの常備を勧め、さらに携帯電話の予備充電器、明かりにも使える手回しラジオ、最低限の食料と水など、防災用品の装備の重要性を説明していただきました。

災害時には、誰もが「自分だけは大丈夫」との考えに陥りがちで、冷静に判断することが難しくなることを説明。防災はソフト・ハード面どちらの対策が欠けても成り立たず、地道なインフラ整備の重要性を強調。「安全には神話も絶対も、そしてゴールもない」と、逐次改善や強化復旧への発想転換の必要性を力強く説明していただきました。